

震災復興版
Gyro

がんばろう福島

～ Voices from Fukushima ～



当協会HPをご覧ください。

東日本大震災と東京電力福島第一原発事故から丸4年が経ち、3月11日には県内各地で震災の犠牲者を悼む行事が行われました。3月1日に常磐自動車道が全線開通し、4月からは「ふくしまデスティネーションキャンペーン」が開始されるなど、復興に向けた取り組みが進んでいます。しかし一方で、中間貯蔵施設の建設など原発事故後の問題が今も多く残っており、また徐々に帰還が進みつつあるものの、昨年末現在で12万人あまりの方が避難生活を強いられています。

(公財)福島県国際交流協会では、震災直後より当協会広報紙「Gyro(ジャイロ)」の震災復興版として「がんばろう福島」を発行しており、福島県の現状や県内の国際交流・協力団体の活動、外国出身県民の声などを紹介しています。

※本紙の翻訳版は、当協会HPからダウンロードできます。

福島の風景

復興商店「とよマルシェ」本格オープン

いわき市平豊間地区の仮設店舗「復興商店 とよマルシェ」では、1月に飲食店や鮮魚店、宿泊施設など4店舗が本格開業しました。

豊間地区は東日本大震災の津波被害が大きかった地域のひとつです。災害復旧工事や土地区画整理などの復興事業が進められ、昨年10月には災害公営住宅も完成しました。3年半ぶりに豊間地区に戻ってきた人も多く、「とよマルシェ」は地元住民の憩いの場ともなっています。各店舗には福島大学の学生が作成した冊子「とよまっぷ」が置かれており、特産品や復興計画などの紹介を通じて、地区の魅力や復興に寄せる思いの発信に協力しています。



(写真上)「とよマルシェ」外観
(写真下)「とよまっぷ」



日本での生活について発表したネパール出身の学生

日本語で日頃の勉強の成果を披露

2月19日(木)、福島市の福島日本語学院で、在校生による「日本語スピーチコンテスト」が行われました。福島日本語学院では、震災直後に学生数が10数名まで落ち込みましたが、徐々に戻り、今年度は95名の学生が学んでいます。

このコンテストは毎年行われており、今年はネパールや中国、ベトナム出身の学生16名がエントリーし、日本で生活や母国の家族、文化や習慣などについて、日本語で発表しました。民族衣装を着て発表した学生も多く、会場全体がとても華やいだ雰囲気でした。

外国出身者向けの緊急放送用CDの制作

(公財)福島県国際交流協会では、大規模地震が発生した際、県内に住む外国出身者の不安を少しでも取り除くため、英語と中国語による緊急放送用CDを制作し、3月5日(木)にその発表をしました。

CDは、大規模地震が発生した直後から数時間に流す第1報と、その後数日間流す第2報の2種類です。今後、県内のコミュニティFMなどのラジオ局やテレビ局、報道機関、自治体等に送り、いざというときに活用していただきたいと考えています。



(写真左)外国出身者向け緊急放送用CD
(写真右)制作発表会の様子

福島に暮らす人々の声

鈴木 ミラソルさん（いわき市在住 フィリピン出身）

震災直後は主人の実家の郡山市や姉が住んでいる和歌山へ一時避難しましたが、その後はずっといわき市に住んでいます。2年前二男が誕生し、日々子育てが大変ですが、現在は英会話教室で働くこともでき、落ち着いた生活が送れています。震災時に一時避難していた人が戻ってきたり、新たに仕事や結婚で来たりと、いわき市にはたくさんのフィリピン出身者が暮らしています。フィリピン出身者同士でも地域や世代、生活環境等でいろいろなコミュニティがありますが、みんな協力し合っていきたいです。



呉 傑さん（福島市在住 中国内モンゴル自治区出身）

2010年に来日し都内の日本語学校や大学へ通い、昨年春に福島大学へ編入しました。福島大学を選んだのは、学びたいことがあったのはもちろん、震災直後にボランティアで福島を訪れたときに、福島のだかさが内モンゴルの故郷と似ているところに共感したからです。大学では経営学を専攻しており、ゼミの活動で広告や雑誌作りに携わったことで県内企業の方たちと交流する機会ができました。その縁を生かして、できれば卒業後は福島県内で働きたいと思っています。

タパ ビニータさん（福島市在住 ネパール出身）

昨年春から福島日本語学院で日本語を学んでいます。この1年間で最も楽しかった思い出は、相馬といわきへ連れて行ってもらい、初めて海を見ることができたことです。それまで映像でしか見たことがなかったので、友達とうれしくてはしゃいでしまいました。しかし、震災の時は福島県の海も何メートルもの高さの津波が来たことを知り、今まで全くなかった防災意識を持つようにもなりました。学校では春から上級クラスになり、日本語の勉強ももっと難しくなると思いますが、卒業したら留学生として日本の大学へ通い、将来は観光の仕事をしたい夢があるのでがんばります。



福島県内各地の環境放射能測定値（暫定値）

出典：福島県庁ホームページ http://www.pref.fukushima.lg.jp/sec_file/monitoring/sokuteichi.pdf

福島県ホームページでは、県内各地の環境放射能測定値（暫定値）を発表しており、（公財）福島県国際交流協会ホームページでは、英語、中国語、タガログ語、ポルトガル語、韓国語にて更新しています。

単位：マイクロシーベルト/時間

日時	福島市	郡山市	白河市	会津若松市	南会津町	南相馬市	いわき市
（平常値）	0.04	0.04-0.06	0.04-0.05	0.04-0.05	0.02-0.04	0.05	0.05-0.06
2015.3.20 9:00	0.22	0.13	0.09	0.06	0.04	0.10	0.07
測定装置	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP	固定型 MP
福島第一原発からの方向及び距離	北西 約 63km	西 約 58km	西南西 約 81km	西 約 98km	西南西 約 115km	北 約 24km	南南西 約 43km

※測定地点は、福島市は県北保健福祉事務所南側広場、郡山市は郡山合同庁舎東側駐車場、その他の市町は各合同庁舎の駐車場です。
※平常値は、県内の平成21年度放射線レベル調査結果です。

お知らせ

○外国出身者のための生活相談窓口のご案内

当協会では、外国出身の方々のために外国語で生活相談に応じています。

- 英語・中国語・日本語 毎週火曜日～土曜日 9:00～17:15
- 韓国語・タガログ語・ポルトガル語 木曜日 10:00～14:00
※第4・5木曜日は事前予約が必要です。

電話：024-524-1316（専用） E-mail：ask@worldvillage.org（専用）

発行者

（公財）福島県国際交流協会

〒960-8103 福島県福島市舟場町 2-1

福島県庁舟場町分館 2階

☎024-524-1315 FAX 024-521-8308

E-mail info@worldvillage.org

URL <http://www.worldvillage.org>